

Graduates in
Action 01



うえき ゆうこ

植木 裕子

植木会計事務所 代表 公認会計士・税理士
商学部経営学科 平成10年卒業

在学中も卒業後も、 日大の仲間から刺激を受けている。

商学部時代は、会計学研究所という公認会計士や税理士をめざす人向けの組織に在籍し、同じ目標をもつ友人とともに試験勉強をしていました。よく勉強し、よく遊び、アルバイトもした学生生活でした。ある時には、研究所の合宿でキックベースをし、転んで腕にヒビが入ったこともありましたが…。思い返すと、時間に追われることなく、のんびりと過ごした貴重な日々でした。噴水前の芝生でよくおしゃべりをしていたことをよく覚えています。

私の場合、決して優秀な学生ではなく、公認会計士試験も卒業後4年目にして合格したので、かなり遅咲きのスタートでした。周りにはすでに活躍している卒業生がたくさんいたので、刺激を受けながら私もそっちの世界に入る!と信念を曲げずに続けることができました。途中で諦めていたら、きっとこの誌面で紹介してもらったこともなかったでしょう。諦めなくて良かったです。

資格取得後、監査法人トーマツに入所し、そこには日大OBがいてとても心強かったです。日大出身と聞くと急に親近感が湧いてしまうのはなぜなのでしょう。独立後も日大OBと一緒に仕事をする機会も多く、さらにゼミの先生とも一緒に仕事をする機会もいただき、働く上で日大つながりはとても重要なものだと感じました。

経営者を相手に仕事をする人が多いのですが、ニーズに応じて、最近も占いを勉強しています。占いを勉強していると思うのが「努力に勝る天才なし」ということです。良い運の波が来ていてそれを掴める人は、やはり日々の努力をしている人が多いです。何も努力していない人は良い運が来ても掴めず、ただ通り過ぎるだけ。何事にも全力で取り組むことが大事だと50歳を目の前にしてようやく気付きました。また、やりたいと思ったことはぜひやってください。やらない後悔が一番心残りになると思います。私は数年前からフラメンコを習い始めました。

最後に大学時代の先輩・同期・後輩は社会に出てからもずっと繋がりがあつたものです。縦・横・ナナメの繋がりを大事にしてください。

At work.



千葉県成田市を拠点に、個人事業主から企業経営者まで幅広くサポート。企業経営や会社設立の支援、相続、個人確定申告なども扱っている。

Profile

日本大学商学部会計学研究所で学び、2001年公認会計士試験に合格。その後監査法人トーマツに入所、2008年に独立して会計事務所を開業。経営者の相談相手になりたいという思いから、税務面だけでなく、最近では四柱推命、タロット、風水などその人の人生のバイオリズムを読み解きながら人生相談に乗っている。

Graduates in
Action 02

商学部で「自ら学ぶ」が身についた。
内なる自分を磨く学生時代にしよう。



のむら かずてる

野邑 和輝

デロイト トーマツ 税理士法人 前理事長
商学部経営学科 平成11年卒業



法人税務全般に関する幅広い知識や経験、社内DXプロジェクトのオーナーを務めるなどデジタル化推進の時代における業務経験も有する。

At work.



大学生のときに私が考えていたことは、大学生は大人なのに学生という甘やかされた存在で、尚且つ人生で最も楽しい時期だということです。一方で、社会に出る直前ということで、自分が何をしていくか、何を学ぶべきかに向かい合う時期でもありました。

私が税理士をめざそうと思った理由は、実力で勝負できる職業会計人であるからです。日大は中堅の私大ですが、言い換えれば中途半端な位置にあります。であるなら一般企業に就職してもそのように映るのではないかと考え、実力勝負ができ、私が好む一人でできる仕事、ということで税理士をめざすようになりました。税理士試験の勉強は、当時学内にあった「会計学研究所」で、税理士試験の科目合格をしていた先輩から教わりました。

大学に入るまで、私は机に向かって真面目に学んだ記憶がありませんでした。商学部に入ってこのままではいけないと危機感を持ち、税理士試験の合格をめざして、自分なりに一生懸命勉強していたように思います。簿記の勉強を最初は1日1分から始め、徐々に勉強量を増やしていくことで、いつしか自主的に勉強する自分になり、学ぶことを習慣づけられました。過去は変えられないから、今頑張ろう。その気持ちは現在も持っています。その切り替えポイントになったのがこのキャンパスです。

そしてデロイト トーマツ 税理士法人に入社してから、「自ら学ぶ」ということは継続してきました。それが、パートナーという立場やデロイト トーマツ グループのボードメンバー、執行役、デロイト トーマツ 税理士法人の理事長を務めるなど、税理士の枠を超えた多様なキャリアを送ることができた理由なのかもしれません。

今回私がここに掲載されることになったのは、私が社会一般的に「成功」していると思われるからであります。本当に大切なことは違います。内なる自分を磨くこと、自分らしさの追求と周囲への貢献を両立させること、その上で真に豊かな人生とは何か、それを自身に問いかけながら皆さんには生きていただきたいです。

私たちの何気ない日常を支えているのは私たち一人ひとりです。一人の力は小さくても、それをどのように積み重ねていくかで、自分自身も周囲も変わります。生きてると色々なことがあります。前向きでいきましょう。

Profile

1975年生まれ、神奈川県出身。商学部時代は堀江ゼミに所属し、会計学を学ぶ。卒業後は世界4大会計事務所の一つに名を連ねるデロイト トーマツ 税理士法人(当時は勝島敬明税理士事務所)に入所。在籍しながら2014年には名古屋商科大学大学院を修了(MBA)。税理士として国内外の一流企業を担当し、2022年7月1日に理事長に就任。

Graduates in
Action 03



まちた もえ
町田 萌

FPサテライト株式会社 代表取締役
商学部商業学科 平成27年卒業



金融商品の販売を行わず、消費者にとって中立な立場から、マネーコンサルティングやセミナー開催などのサービスを提供している。



20代でFPとして独立。 FPの新たなビジネス確立をめざす。

高校時代は部活一本で過ごしていたため、大学ではさまざまな経験がしたいと思って入学しました。希望していたとおり、FP(ファイナンシャルプランナー)に関する授業の履修や資格取得などで勉学に励んだほか、砧キャンパスが主な練習場所だったオール日大の管弦楽団や、多種多様なアルバイトを経験でき、商学部では充実した学生生活を送れました。

FPになることは高校時代から決めていましたが、大学に入り調べていくうちに、FPとしての就職先としては、保険や証券などの金融機関に入るくらいしか道がないことがわかりました。そのため、FPとして幅広い分野に関わりたいと思っていた私は、将来的に独立することを大学2年生の時に決めました。それからは起業を視野に入れて、保険会社のコールセンターでのアルバイトや民間の勉強会参加、独立している方に話を聞きに行くなど、起業に向けて準備をしていきました。

卒業後は税理士法人に1年間勤務後、同じ志を持っていた夫とともに、2016年に起業しました。最初はお客様のいない状態から、お金や家計に関する記事執筆で実績を積み上げ、セミナーも無料で開催するところから始めました。そうして徐々に安定・活躍の場が増えていき、アメリカで注目されるFP分野の実務家とのパネルディスカッションで、日本のFPとして呼んでいただくなど、貴重な経験もさせてもらえました。

年功序列や終身雇用が薄れた昨今、自分の人生は自分で守らなければならないになりましたが、まだまだ前時代的な価値観が根強く残っているように思います。FPはお金の専門家でありつつ、本質的にはどのような人生を送るかにまで関わる仕事です。包括的な観点から豊かで幸せな人生を主体的に生きられるサポートができるFPを増やしていくことを使命として活動しています。

金融商品を販売しないFPのビジネスを確立すべく、他社にはない取り組みに挑戦してきました。自社にFPとして所属して活動する「所属FP制度」を創設し、紆余曲折ありながらも少しずつ活躍の土壌ができつつあります。今後はさまざまな事業を展開し、FPの認知度と社会的地位の向上に努めていきます。

大学時代はとても貴重な期間です。良くも悪くも柔軟に色々な価値観を吸収することができる時期でしょう。学生さんにはその期間をどう過ごすか、誰と接するかを考えながら、有意義な学生生活を送ってほしいです。

Profile

千葉県佐倉市出身。高校時代よりファイナンシャルプランナー(FP)を志し、日本大学商学部に進学。税理士法人勤務を経て、金融商品の販売を行わないFP法人、FPサテライト株式会社を開業。2020年より産業能率大学通信教育課程の兼任教員に就任。著書に「よくばりに気分よく生きたい私たちに都合のいい お金の教科書」(クロスメディア・パブリッシング・2022年7月)。

Graduates in
Action 04

授業にも稽古にも手を抜かなかった 学生時代が今につながっている。



だいまみ げんき

大奄美 元規

現役大相撲力士

商学部商業学科 平成27年卒業

日大に入学が決まったとき、学部をどうするか迷っていました。その際、出身中学・高校が同じ木崎(孝之助)監督(商学部事務局長・相撲部監督)に相談したのです。そこで勧めてくださったのが商学部でした。商学部は運動部員であっても特別扱いせず、授業に出ないと単位が取れないし、卒業もできない学部です。私の性格をよく知っている監督は、だからこそ商学部が合っていると思って勧めてくださったようです。実際、商学部で勉強することを大変だと思ったことは一度もありません。鹿児島商業高校時代から簿記は好きだったので楽しく学べました。いつも授業の10分前には行って一番前に座り、試合の時以外は欠かさず出席しました。寮や稽古をしているときは相撲部の一員ですが、授業を受けているときは一学生。授業中は相撲を忘れて、英語の授業なら英語のことだけに集中していればいいわけですから、気分転換になっていたと思います。

授業が終わればすぐに相師ヶ谷大蔵駅に行き、稽古場のある阿佐ヶ谷に向かう毎日でしたが、砧キャンパスでは学食がお気に入りの場所でした。大体は同じメニューの食券を2枚か3枚買い、たぬきうどんが好きだったので、いつも「天かすたくさん入れて」と言って3杯は食べていました。

相撲部では団体戦の大将を務めることが多く、土俵に上がる度に日大の看板を背負っていることを実感するようになりました。母校愛のようなものでしょうか。支え合う仲間がいる日大のために勝とうという意識がいつの間にか芽生えていました。そして勝つ喜びも負ける悔しさも皆といっしょに味わいました。今、私が所属する追手風部屋にも日大の仲間が多くいますが、やはり今も同じ母校の相撲部で寝食を共にしながら、稽古に励んでいたという絆の強さを感じます。

大学時代に良かったことは、立派な監督、学生を支えてくれる温かい先生に出会えたことに尽きます。そして真面目に取り組んだ分、商学部の学びも面白く感じました。今は相撲に全力集中していますが、引退後はまた勉強するかも知れません。商学部で勉強した簿記やマーケティングの戦略論などは、将来相撲部屋を経営したり、新しいビジネスを立ち上げたりするときに活用できるかも知れないですね。

At work.



身長185cm、体重188kgの体格を生かした寄り切りが得意技。

「念ずれば花開く」をモットーに、結果を追求して努力を重ねている。

Profile

本名：坂元元規。1992年生まれ、鹿児島県大島郡龍郷町出身。7歳から相撲をはじめ。鹿児島県奄美市立赤木名中学校を経て鹿児島商業高等学校商業科では3年次に高等学校相撲金沢大会で優勝。日本大学商学部時代は宇和島大会で優勝したほか、団体戦レギュラーメンバーとして活躍。追手風部屋に入門し、2016年に初土俵を踏んだ。好きなアーティストは長瀬剛。

Graduates in
Action 05

漆文化を未来へ繋ぐために、
留学中パリで気づいた大事なこと。



きりもと こうへい

桐本 滉平

漆芸家

商学部商業学科 平成29年卒業

高校を卒業する年に起こった東日本大震災。それをきっかけに、日本の工芸を未来に残さなくてはと感じ、輪島塗の老舗である家業を継ぐことに決めました。輪島塗の問題点としては、マーケティングの弱さを以前から感じていました。そのため、物売るための勉強をしようと、マーケティングの観点から輪島塗の研究をされていた岩田貴子先生のいる日本大学商学部に進学を決めました。

2年生で岩田ゼミに入ってから、ゼミ生を巻き込んで輪島へフィールドワークに何度も通うなど、アクティブな学生生活を送りました。インゼミ大会への出場など、積極的な雰囲気のあるゼミだったと思います。今では各業界のトップランナーとして活躍しているメンバーが多いことも納得です。卒業後も輪島に来てくれたり、今回の震災(令和6年能登半島地震)で義援金を集めてくれたりと、今でも強くつながりを感じています。

在学中には、父の仕事の手伝いとしてイタリアを訪れ、ヨーロッパに身を置きながら、日本の文化を見つめ直す必要性を感じました。そこで国の留学制度を活用し、フランスへ留学。パリのギャラリーで輪島塗のマーケティングを実践しました。そこで気づいたことは、「輪島塗」という名前だけで海外では通用しないということ。海外で売るためには、現地の文化に寄り添い融合することが求められました。フランス人の感性に寄り添えるよう、対話をしたり、考えを深めたりする中で、天然樹脂である漆という素材の良さにも気づけた機会となりました。

卒業後はそれらの気づきを生かしながら、プロジェクト「IKI」の立ち上げや海外と関わる仕事など、プロデューサー的な立ち位置で、さまざまなことをさせてもらいました。今は、制作現場の改善点を見つけるためにも、自ら制作することをメインの仕事としています。でもパリで感じた感覚はずっと生きていますね。

これまでの経験から、何か自分が岐路に立たされたときに、既存のルールに疑問を持って、その上で自分の意見を持つことが大切だということが私の考えです。だから、在学生にも自分の道を信じて突き進んでほしいです。また、校友会の皆様には、今回の地震の際に義援金で助けてくださった方、自分の情報を広めてくださった方がいて、この場を借りてお礼を申し上げます。お互いを応援し合い、困ったときに支え合える関係の素晴らしさは改めて良いものだ実感しています。

Profile

1992年石川県輪島出身。大学卒業後、父の元で漆芸品の販売・企画の経験を積む。2020年に個人での創作活動を開始。主に漆、布、米、珪藻土を用いた乾漆技法により、「生命の尊重」をテーマに創作を行う。また、国内外のアーティストやブランドともコラボレーションにも取り組んでおり、これまでに「SAGAN VIENNA」とのバッグ制作、「CHARLES MUNKKA」との絵画制作、「YOSHIROTTEN」との盃制作、「EASTERN SOUND FACTORY」とのスピーカー制作などを発表。

At work.



江戸時代から能登で漆に携わり続ける桐本家に生まれる。日本がこれまで育んできた文化を通して地球を豊かにすることを目標とする。